

『生き残るための消化管造影検査撮影法とその画像評価法』

埼玉県立がんセンター 腰塚 慎二

あなたの施設の消化管造影検査撮影法は、大丈夫ですか。精度管理は行っていますか。

近年、内視鏡機器の発展・普及、検査技術の向上と共に、多くの医師は内視鏡検査に目を向け、消化管造影検査の施行者は我々診療放射線技師に移行しています。また、一部の施設では診療放射線技師が読影レポートを作成し、それを医師がチェックする、いわゆるダブルチェック方式の検査システムを取り入れている施設もあります。

胃X線検査は、内視鏡検査に比べ効率が悪く、見逃し率が高いとした報告以後、集団検診を除く、拾い上げ診断のための胃X線検査の減少は顕著となっています。また、注腸X線検査では、大腸癌検診の二次検診における標準検査法を積極的に全大腸内視鏡検査に切り換えていくことが望ましいとする報告が厚生労働省から出されて以来、二次検診の検査法を全大腸内視鏡検査に移行する施設も多くみられ、注腸X線検査も減少しつつあるのが現状です。この原因の一つとして検査精度があげられます。X線検査の精度を向上させるには、盲点のない二重造影法を基本とした撮影技術と、撮影された画像が十分な診断情報を供しているかどうかを評価する画像評価が必須と考えます。

今回のレクチャーでは、「新・胃X線撮影法（間接、直接）の基準」と「注腸X線検査の標準化」の標準的撮影法の解説を中心に、検査精度の向上に必要な画像の質的向上と撮影手技、造影剤、ルーチン撮影法と応用撮影法の組み立て方等について画像評価を踏まえて実践のポイントをレクチャーして頂きます。

レクチャーの講師は現場の第一線で活躍されている私達の仲間を講師として招き、解りやすく解説して頂きます。

レクチャーの概要と担当講師は以下のとおりです。

胃間接X線撮影法	木村俊雄	(東京：労働医学研究会)
	久保次男	(大阪：大阪がん予防検診センター)
胃直接X線撮影法	石本裕二	(鹿児島：鹿児島共済会南風病院)
注腸X線検査撮影法	本田今朝男	(神奈川：神奈川県労働衛生福祉協会)
	森永宗史	(大阪：伊藤クリニック)

「日本消化管画像研究会全国役員会、  
および消化管3学会・研究会による討論会」

日本消化管画像研究会 会長 小川利政

日本消化管画像研究会は、平成5年に日本放射線技師会に「消化管検査指針委員会」が設置され、消化管造影検査の精度向上に向けての活動を行い発展的に解散し、平成15年7月11日に日本消化管画像研究会の名称のもと、新たに活動を行ってきました。

日本消化管画像研究会では、今までの活動のさらなる充実と、日々進歩する医療に対応すべく、新しい消化管検査分野の研究ならびに指針委員会発足当初のスローガンである「患者中心の医療の確立」「医療の質的向上」を目標に活動を行ってまいります。

平成16年度全国放射線技師総合学術大会（於：長崎）においては、全国役員会議では、これまで行ってきました指導者、および会員研修会等の活動報告を行うとともに、今後の活動報告を行い、主に役員間の意見交換を行いたいと考えております。また、消化管3学会研究会代表を迎えての討論会では、日本消化器集団検診学会、日本消化器画像診断情報研究会の代表を迎えての討論会を企画しております。

本会の概要は下記のごとくです。

1. 全国役員会議

1) 研究会班活動報告と今後の展開

- ①注腸標準化班、②被ばく線量測定班、③デジタル画像班、④レポート班
- ⑤X線透視・撮影装置用精度管理チャート作成班

2) 指導者、および会員研修会

3) 他学会、研究会との交流活動

2. 消化管3学会・研究会による討論会

1) 消化管造影検査の現状と将来について

2) 消化管検査認定技師制度について

これからの消化管造影検査を担うのは、私達放射線技師と言っても過言ではありません。消化管造影検査に携わっている方やこれから勉強しようとする方で、仲間として共に学ぶ意欲と熱意ある会員の参加をお待ちしています。